

2025 大阪大学（前期）国語（文学部）概評

出題分析			
試験時間	120分	配点	150点
		大問数	4題
分量（昨年比較）	[ 減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 ]	難易度変化（昨年比較）	[ 易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化 ]
<p><b>【概評】</b></p> <p>〈現代文〉 問題文の分量や設問形式、出題傾向はともに例年どおりであった。</p> <p>〈古文〉 2024年度と比較すると、問題文は短くなったものの、和歌が5首含まれており、読解に少々苦勞した受験生もいたかもしれない。</p> <p>〈漢文〉 問題文の分量や設問形式、出題傾向はともに例年どおりであった。2008年に同一出典の別箇所が出題されている。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	現代文（評論） 香川檀 『想起のかたち— 記憶アートの歴史意識』  ○行数：78行	アーカイヴ・蒐集の特徴と、アーカイヴ型アートの意義を論じた文章。問一の理由説明問題は、アーカイヴがはらむ政治性と恣意性に言及する。問二の内容説明問題は、収蔵品自体がもつ資料的価値と蒐集家によって付与される価値に着目する。 ※（昨年度）評論、69行、4問（4）	標準  〈問題文〉 標準  〈設問〉 標準
II	現代文（小説） 吉村昭 「彩られた日々」  ○行数：77行	第二次世界大戦中の東京で、青年たちが社会的情勢に巻き込まれていく話。問一の理由説明問題は、語り手である「私」の水死体に対する認識の仕方に注目する。問三の理由説明問題は、鵜飼の言動から心情を類推する。 ※（昨年度）小説、89行、4問（4）	標準  〈問題文〉 標準  〈設問〉 標準
III	古文（鎌倉・紀行文） 作者未詳 『東関紀行』  ○行数：16行 ○和歌5首を含む	都から鎌倉へ下る最中の筆者が、興津浦や富士山付近の宿に立ち寄る場面。問一の現代語訳は標準。問二の内容説明問題は「ぬ」が打消の助動詞であることに留意する。問四の内容説明問題は、二人の人物に共通する風流心に着目する。問五の現代語訳は、直前の「富士の山の記」についての記述を踏まえる。 ※（昨年度）室町・御伽草子、20行、6問（7）	標準  〈問題文〉 標準  〈設問〉 標準

設問別講評			
Ⅳ	漢文（前漢・説話） 劉向編 『説苑』  ○行数：10行	かつて趙宣孟に恩を受けた男が、のちに彼の命を救う話。問一の書き下しは「見」が他動詞である点を押さえる。問二の理由説明問題は、傍線部以降の餓人の発話にもとづく。問三の理由説明問題は、直前にある「知之」の内容を踏まえる。問五の理由説明問題は、餓人と趙宣孟の関係性に着目する。 ※（昨年度）三国（魏）・笑話集、6行、5問（5）	標準  〈問題文〉 標準  〈設問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。大阪大学の問題文は、現代文・古文は通常56字/行（20行/頁）。漢文は22字/行（10行/頁）。

設問構成（設問数・形式・内容）													
大問番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その他
I	4問(4)		4		2>2	1>1	1>1						
II	4問(4)		4			3>3	1>1						
III	5問(6)		6		2>2					4>4			
IV	5問(5)		5			3>3					1>1		1>1※

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

※「その他」の「1」は、現代語訳と理由説明問題（大問Ⅳ・問四）。

合格のための学習法
<p>〈現代文〉 大阪大では小説問題が必出だが、入試問題で小説を扱う大学は少ないため、他大学の問題にも広く当たり、解答のまとめ方を練習しておこう。</p> <p>〈古文〉 大阪大の古文では和歌に関する設問が多いので、苦手意識をなくしておこう。また、有名出典からの出題も多いため、教科書を中心に多くの古典作品に親しんでおくとよい。</p> <p>〈漢文〉 基本的な語句・句形に関する知識を養成しつつ、記述力も身につけよう。</p>